180年の企業活動における21世紀冒頭の20年間を編纂　「鹿島建設社史　2001年～2020年」を刊行

鹿島建設株式会社　　2022年08月04日

鹿島（社長：天野裕正）は今般、「鹿島建設社史　2001年～2020年」を刊行しました。　本書は、当社の企業活動を客観的かつ忠実に記録する「正史」として、「鹿島建設130年史 上・下」（1971年刊行）、ならびに「鹿島建設社史　1970年～2000年」（2003年刊行）の続編の位置付けで編纂したものです。これにより、1840年の創業以来、当社の180年以上に及ぶ企業活動が通史としてまとまりました。

本書の編纂対象期間である2001年から2020年にかけては、日本国内のインフラ整備や都市再生への取組み、東日本大震災などの自然災害の頻発を受けた国土強靭化の推進、ESGやSDGsへの対応など、社会的課題が多岐にわたり、建設業の果たすべき役割も広範囲なものとなりました。

本書では、「D滑走路」を始めとする羽田空港の拡張事業、新東名・新名神などの高速道路整備事業、各整備新幹線の延伸事業、「東京ミッドタウン日比谷」などの都市再生事業のほか、再生可能エネルギーや廃棄物処理場などの環境関連施設、「姫路城」や「東京駅丸の内駅舎」の保存・修理・復原といった、当社が手掛けた国内外の広範囲なプロジェクトを紹介しています。

本書を、主要な発注者・協力会社・コンサルタント・設計事務所、全国の図書館、大学などに謹呈したほか、社内各部署およびグループ各社に配布しました。これにより、社外におかれては、当社の活動を通じ、建設業が社会に果たす役割の一端をご認識いただけることを、社内・グループ各社においては、当社の歩みを振り返り、未来を見据える一助となることを期しています。

体裁：A5判、上製、クロス貼、貼箱入。本編756頁、資料編243頁（非売品）。

問い合わせ：総務管理本部総務部　本社資料センター

プレスリリースに記載された内容（価格、仕様、サービス内容等）は、発表日現在のものです。

その後予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。